

## 令和元年度第2回あきる野市図書館協議会 会議録（抄録）

- 1 日時 令和元年12月17日火曜日 午前10時
- 2 会場 中央図書館2階会議室
- 3 出席者 委員：佐野委員、右田委員、伊藤委員、三池委員、三神委員、中島委員  
木下委員  
職員：松島生涯学習担当部長、紺藤図書館長  
庶務係長、中央図書館係長、東部図書館エル係長、  
五日市図書館係長

### 4 議事

- (1) 「あきる野市の図書館 平成30年度版」について
- (2) あきる野市図書館運営基本方針策定のための市民アンケートの集計について
- (3) その他

開会 <図書館長> 午前9時56分

挨拶 <議長>  
<生涯学習担当部長>

前回会議録修正点の確認 <図書館長>

議事 <議長進行>

(1) 「あきる野市の図書館平成30年度版」について

事務局説明（庶務係長）

事前配布資料「あきる野市の図書館平成30年度」により、平成30年度の図書館活動の実績と前年度版から修正した箇所について説明

質疑

委員 登録者数については、30年度より有効登録者ということで数字に変化があるが、補足説明が必要ではないのか。

事務局 表の下部に30年度より有効期限内のカウントととする旨記載しています。条例上も利用者登録の有効期間は3年間と規定されていますので、今までの累積データを整理し本来の数値であるということでご理解いただければと思います。

委員 ぶっくくらぶ、アニメシオンの内容についてお伺いしたい。

事務局 このぶっくくらぶは、アメリカで始まったもので、子どもたちの方で本を選ばせて少人数のグループでディスカッションさせることで、子供たちに読む力、考える力、聞く力を育てるというものです。30年度は4年生から6年生を対象に3回実施しています。初めての開催ということで、図書館で指定した物語を読んで、その中からみんなで読むものを決めてもらい、感想を互いに出してゲームをしました。今年度は夏休みの期間に3週連続で開催しましたが3回とも参加するのはなかなか難しかったようです。また1週間のスパンでしたので取り上げた話も少し易しいものにする等の工夫をしました。アニメシオンをやって課題を見つけた方が楽しくやれるように感じました。また、後半で読み応えのある物語のブックトークを入れることで読む力のある子どもも参加してくれていることも確認できました。ただ、こちらが意図しているような自らが課題をぶつけていくような展開はなかなか難しいように思います。以前はビブリオバトルをやったこともありますが、それより子供たちも喜んで参加している状況というのは2度やって感じておりますので、当面こちらの方でやっていきたいと考えております。

委員 このような企画では、リーダーの資質が重要と思いますが、研修はどのようになっていますか。

事務局 児童担当は外部の研修に参加させています。また、内部でも研修会を実施しています。

委員 本の厳密な考え方や国語的な解釈は学校にお任せして、間違い探しやゲーム等子どもが興味を引くようなものから始めてみるのも大事ではないか。

事務局 読書離れということもあり図書館に来る子どもも限られています。もっと子どもたちに来ていただきたいということで、図書館でも様々な事業を展開しています。今回も初めて参加した子もいましたので、まずは図書館へ来るきっかけとして考えてます。そこから図書館に来る子どもたちが育てばいいなというふうに思っております。

委員 おはなしパレードですが、対象が小学生となっていました。当日は小さい子ども、明らかに素話は無理と思われる年齢の子どももいました。また、プログラムに演じる方の名前がありません。子どもも名前を覚えることで親しみが増します。また、読み聞かせの指導はどのようになっていますか。

- 事務局 プログラムの演者の名前の記載については特に意図はありません。スタッフも全員がベテランという訳ではありませんので、ベテランが新人を指導し、何度も何度も練習しております。今後も引き続き、読み聞かせの技術を向上させるため、指導や研修への参加等も積極的におこなって参ります。
- 委員 お休みの日に他の図書館のおはなし会を是非聞いてみていただきたい。近隣の開催情報はお渡ししていますが。
- 事務局 いただいた情報は回覧し情報共有しています。ただ、休日ですので強制もできません。いただいた情報以外でも各自でスキルアップのため取り組んでおります。
- 委員 読み聞かせ講座ですが、昨年度は14人の参加でしたが、今年は何人でしょうか。事業計画の段階では調整中とのことでしたが。
- 事務局 今年は4人でした。
- 委員 五日市図書館での「読み聞かせに関する助言」という事業が20人となっています。同じような事業で参加者に差があり過ぎませんか。
- 事務局 この事業は、学校のPTAからの働きかけがあり実施したものです。そのためPTAから多くご参加いただいたものとなります。
- 委員 図書館の大型絵本は、紙芝居と比較して数が少ないので、時期によって利用が集中し借りるのが争奪戦となってしまう。
- 事務局 大型絵本は使われる場面を想定し、数は多くありませんが毎年購入しています。1か月前から利用日が決まっていれば予約ができますので、ご相談いただければと思います。
- 委員 除籍が多いのではないか。
- 事務局 ガイドブック、資格試験、法令、健康情報等の図書は情報が古くなると資料的な価値も低くなりますので、これらを更新していく必要があり、書架をフレッシュに保つために一定数の除籍が必要です。特に当市の除籍が多いということはありません。
- 委員 どこも図書館の予算を削減したり、縮小する中で、あきる野市は平成20年から高い水準を維持していると思う。この報告書を見ても細かいところまで数値を出していると思う。事業は失敗もあるかもしれないが、続けてほしい。
- 委員 個人貸出の年令別分布を見ると、13歳から19歳の部分がガクンと落ちている。この人たちが大人になった時に、文化の部分の担い手として大丈夫なのかな、という心配があります。全国的な傾向でしょうかいかがでしょうか。
- 事務局 市では、子どもの読書活動推進計画を二次三次と策定し、中高生の利用を増やすため取り組みをおこなっておりますが、なかなか成果が上がってないというのが現状です。

やはりスマホの影響は相当あって、図書館に来てスマホ見ながら学校や資格の勉強ということが多い。忙しいということもあるのですが、中学生までに読書経験を身につけて、成人してからも図書館に足を運んでもらえれば、と考えています。

委員 学校との連携も重要になってくると思う。

委員 報告書にもありますが、子ども読書活動推進事業の一環として、学校や学校図書館への働きかけをしていただいている。これが非常に大事で、小学校1年生から色々なところで種まきをしていただいております、職場体験、インターンシップ事業等、非常にありがたく感じている。学校も図書館も職員以外の様々な方が関わっており、こういった現状で学校の図書館をもっと強化していく必要があると感じている。調べものについては、図書館に直接行く前に学校の図書館で探してみましよう、という指導をしています。

先ほど、名前の事が話題となっていました、いま学校でも先生の名前を出していくという時代でもない、個人的には問題ないと思います。

委員 自分が子どもの時は公共図書館より学校の図書館が身近な存在でしたが、利用状況はどうでしょうか。

委員 具体的な数値等は持ち合わせていませんが、小学生は多く利用していると思いますが、中学生はやはり忙しいというのもあり、どうしても利用が減っていく現状があるかと思えます。読解力が重要なんだということで、内面的な深いところまで調べていこう、というような指導もあります。スマホのようなつなぐだけのものでなくて、もっと深く調べるところの延長上で図書館の利用や読書につながればいいなと考えています。

委員 小学校では週に一回ぐらいの割合で読書の時間に割いて図書室を利用しています。ただ高学年になると、少しずつ減っているように感じます。中央図書館が近いので施設見学にもお伺いしておりますし、調べ学習の資料をまとめてお借りすることもあり、大変お世話になっております。学校の図書室の量ではまかないきれないので助かっています。移動教室の事前学習等も以前より新聞や図書の活字よりもインターネット、スマホで調べるような傾向があります。新しい指導要領でもプログラミング教育がありますし、今後もこういう傾向は強くなっていくと思います。町の本屋さんが無くなっており、自ら本を買うという機会が少なくなっていることもありますので、図書館が本に親しむきっかけになってほしいと思います。

委員 いま、小学校では図書の時間というものは無いのでしょうか。

委員 国語の教科のなかで、週に1時間は図書室を使っています。

委員 情操教育というものが足りないように思う。他人の人生を思うとか悲しむとか、

創造力とか、これは読書することが大事であるように思う。図書館に行って本を読む、こういうことは絶対に必要なので予算を削ったりしないでいただきたい。

委員 学生時代の読書は、大人になってから主体的に判断して行動するために役に立つ。図書館は非常に大事な存在であると思う。

委員 小さい頃に図書館が身近にあることはとても大事。これからも事業を継続してください。

## (2) あきる野市図書館運営基本方針策定のための市民アンケートの集計について

### 事務局説明（庶務係長）

「資料2 あきる野市図書館基本的運営方針策定のための市民アンケート（速報版）」  
をもとに、説明

- ・満18歳以上の市民（市の年齢構成、地域構成に準じ無作為抽出）千人を対象とし、令和元年8月29日（木）から令和元年9月20日（金）まで実施
- ・回収は同封の返信用封筒によるほか、返す本のポスト、各館の窓口で受付けた。回収数は320通（32%）
- ・今回お示ししたものは回答数の一覧で、今後分析を実施する

### 質疑

委員 回答の中心が40代から70代の方が多い。若い世代の回答が少ないので、中高年の意見が多くなるのでは。

事務局 来館者へのアンケートでも同様な傾向で、図書館自体に関心が少ないということの表れかなと思いますし、子育て世代よりもは時間的余裕のある高齢の方が多くなるように思います。

委員 図書館を利用していない人の割合（136人）も多いようだが。

事務局 この数値をどのように捉えるのかという部分では難しいところであります。今後、無回答を除いたり、年齢層によるクロス集計等を行って分析を進めていきたいと考えております。

委員 32%という回収率は他のアンケートと比較していかがでしょうか。

事務局 市の他のアンケート調査も大体3割ぐらいで遜色はないようです。今回、事務局としては、3割をラインとして考えておりました。切ってしまうとちょっと考えてしまうところでしたが、3割を超えたということで安心しております。また、文京区でも同じようなアンケート調査を実施していますが、回収率23%となっております。

委員 残りの680人の方は、興味がなかったのか時間がなかったのでしょうか。調べものの項目でインターネットが多くなっているのは、24時間いつでも利用できるからで、図書館は開館時間じゃないと使えないというところでしょうから悲観する必要はないと思う。

委員 この調査結果を、東京都とか全国と比較するということはあるですか。

事務局 傾向の比較は可能かもしれませんが、設問項目も異なっておりますので、現在のところは考えておりません。

委員 インターネットでの情報は正確さというところで注意が必要、我々もそういう認識を持たないといけない。

委員 ボランティアをやってまして、調べ物をするところがあるのですが、私が図書館で調べた答えと、他の人がインターネットで調べた答えが違うんです。結局、図書館での調べ物の方が正解というのが9割です。

委員 インターネットと違って、紙芝居というのは、次の場面を考えて想像して、というのがある。もっと紙芝居を増やした方がいいと思う。

委員 保育園でも絵本や紙芝居に親しんでいる状況があります。

委員 紙芝居は本当に大事。聞いている子どもの反応を見ながらできる良さもある。

### (3) その他

委員 先日、子ども読書講演会で、元学校司書の方の講演を聞いたのですが、非常に面白い内容でした。読み聞かせでは、子どもに質問をしてはいけない、感想を求めると子どもは本嫌いになってしまうという話がありました。印象に残ったので、ここで紹介させていただきました。

議長 他に無いようですので、議事は以上で終了とします。

事務局より東京多摩地域図書館大会の概要及び次回開催予定日を告知

閉会 <図書館長> 午前11時36分